

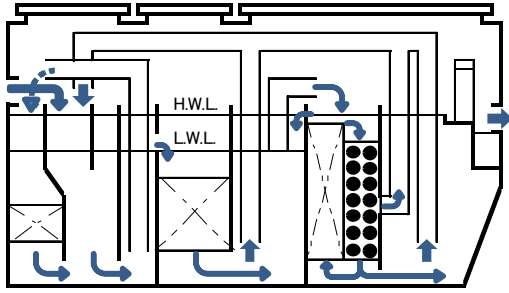
事例57 循環水量を抑えた事による水質改善事例

1. 基本情報および一年間の測定結果

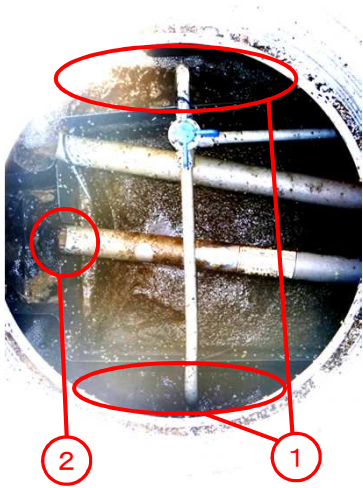

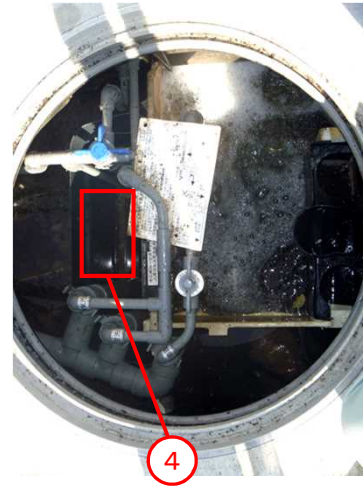
処理方式	性能評価型 窒素除去型	作業予定月	
メーカー/型式	(株)ハウステック/KTG型	保守点検	2・6・10月
人槽/使用人員	7人槽/4人使用	清掃	12月
日平均汚水量	0.72m ³ /日	法定検査	8月

	放流水透視度(度)	DO (mg/L)	pH	1次処理流出水透視度(度)	1次処理1室 (cm)		1次処理2室 (cm)		処理水槽 (cm)	
					スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚	スカム厚	堆積汚泥厚
保守 平成26年2月18日	19	1.1	7.4	16	0	13	0	9	0	7
保守 平成26年6月6日	36	1.4	6.8	23	2	15	1	12	0	12
法定 平成26年8月26日	22	0.7	7.2	15	8	27	1	22	0	15
保守 平成26年10月8日	39	1.3	7.0	17	10	21	1	15	0	9
清掃 平成26年12月5日	32	/	6.8	17	16	24	/	20	/	/

2. 浄化槽の概要図と法定検査時の設定状況

概要図	法定検査時の設定状況	
 <p>ろ材 ろ過担体</p>	メーカーの基本設定	保守点検の設定
	循環水量 (使用水量が1.0 m ³ /日以下) 2.0~2.9 L/分	3.5 L/分
	逆洗設定 1日3回 1回10分	1日3回 1回10分
	放流水量の目安 計量堰の水位目安と一致して放流	計量堰の水位目安と一致して放流

3. 法定検査時の槽内状況

1次処理1室	1次処理1室/2室	2室/2次処理/処理水槽
		
①汚泥貯留部(常時攪拌) ②循環水の採水箇所	③DO測定値2.1mg/L 1室流出口でDOが検出される場合は循環水量が多い事が考えられる	④1次処理2室流出口 ※撮影の為、消毒筒は取り外しています

4. 透視度低下の原因と保守点検への申し送り事項

	循環水量	1次処理1室	1次処理2室流出口
			
原因	②循環水量3.5L/分 基本設定より多い	①汚泥貯留部SV ₃₀ 10% 汚泥濃度低い	④2室堆積汚泥厚 22cm



申し送り	① 循環水量を基本設定に調整して下さい ② 1次処理2室流出口の堆積汚泥を移送して下さい
------	---

5. 保守点検からの経過観察

測定値		措置① 平成 26年 8月 29日 (法定検査から 3日後)
放流水透視度(度)	22	状況確認と指示とおり措置と調整を行う
測定値		措置② 平成 26年 9月 8日 (法定検査から 13日後)
放流水透視度(度)	26	循環水量2.0L/分、1次処理1室SV ₃₀ は28%
1次処理2室堆積汚泥厚(cm)	18	
1次処理1室SV ₃₀ (%)	28	
測定値		措置③ 平成 26年 9月 22日 (法定検査から 27日後)
放流水透視度(度)	35	透視度が改善しました
1次処理2室堆積汚泥厚(cm)	15	1次処理1室SV ₃₀ は40%
1次処理1室SV ₃₀ (%)	40	

6. 保守点検から清掃への申し送り事項

① 循環水量は2.0L/分で調整しています
② 逆洗設定は変更しないで下さい

7. 清掃時の留意点

① 適正量引抜き区分 ○—○—○
② 1次処理の立ち上げを早める為、ろ材の洗浄はしすぎない
【ろ材の形状】 1次処理1室:へチマ様板状 2室:網様円筒状